

第64回 実践勉強会 実施レポート

8月11日(火)実施

大田区薬剤師会 東和薬品株式会社 共催

「東邦大学医療センター大森病院における後発医薬品選定基準について」

東邦大学医療センター 大森病院 薬剤部長 特任教授

西澤 健司 先生

参加 49 名

アサヒ薬局医大前店	中畔・八巻・豊田
アサヒ調剤薬局	中畔・桑原
秋島薬局	秋島
いけがみ薬局	佐野
市川薬局	小野
江島薬局	浅野・江島・浅野
大森会営薬局	野村・和田
大森プライマリー薬局	荒井
グリーン薬局	川添・堀
コーコク薬局	五十嵐・田辺・松原
さがわ薬局徳持店	大澤
サークル薬局田園調布店	木村
すみれ調剤薬局	平賀
長栄堂薬局	塚越・嶋田・嶋田
東邦大学大森病院薬剤部	小川・読山・石田・青山・井上・菅井・花井
にしかわ薬局	新木・福井
ひかり薬局	古谷
ひまわり薬局	曾我
ひろみ薬局池上店	平林・増田
ひろみ薬局中央店	外山・橋本
フレンド薬局池上店	窪田
みつこし薬局	浜田
みなみ薬局サンフラワー店	引地
美原薬局平和島店	田中・田中・赤間

八潮調剤薬局	河野
安田病院薬剤部	荻野
やまもと薬局	山本

質疑応答

Q：適用不一致のジェネリック製剤（今回のクロピドグレル等）について、院内採用をする事はあるか？

A：院内では患者に対して説明などの手間もあるため、適用が一致しなければ採用検討は行わない。

Q：眼科からの処方箋では、GE 不可が多いように感じるがその理由は？

A：皮膚科もそうだが、ドクターの抵抗もあり抗生剤についてはジェネリック可にしているが、アレルギー系の製剤についてはジェネリック不可にしている。

Q：別の病院だが、処方箋がジェネリック不可ではなかったからジェネリック製剤を処方したが保険で切られた事があった。薬局側としては納得できないが、病院側としての見解は？

A：病院との兼ね合いもあるので、そちらの病院とうまくやって頂きたい。

Q：レボフロキサシン内用液について、水剤は成分が分離しやすいとよく聞くが東和の製剤については同等性が保てているのか？

A：当社学術部に問い合わせた上で、後日正式な回答を致します。

⇒最終包装製品を用いた長期保存試験(25℃、相対湿度 60%、1 年 6 ヶ月)及び加速試験(40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月)を行い、「安定性データの評価に関するガイドラインについて」(平成 15 年 6 月 3 日医薬審発第 0603004 号)に基づき、レボフロキサシン内用液 250mg 「トーワ」は通常の市場流通下において 2 年 6 ヶ月間安定であることが推測されております。外観上、分離は認められておりません。上記より、2 年 6 ヶ月間の安定が推測されているため、使用期限内であれば、同等性を含め、品質上問題ございません。

Q：バルクが 2 つあると品質チェック体制の違いがあるのか？

A：当社学術部に問い合わせた上で、後日正式な回答を致します。

⇒製剤に使用するバルク（原薬）につきましては、品質を担保するための規格が設定されております。この規格は、複数のバルクを使用している場合でも、共通のものでござ

ざいます。製剤に使用する前には、バルクにつきまして設定した規格に適合するか、製剤の製造工場におきまして試験を行っており、適合したもののみを使用しております。バルクのロット毎に、原薬試験成績書がございます。

以上